

◇ 石川 信雄

○議長（清水満） 休憩前に引き続き会議を開きます。

発言順位 7 番、議席番号 7 番、石川信雄議員を指名します。石川信雄議員。

〔7 番 石川信雄 登壇〕

○7 番（石川信雄） 議席番号 7 番、石川信雄でございます。質問通告書に従いまして順次質問してまいります。

私事ではありますが 10 月に市町村アカデミーへ研修に同僚議員 2 名と行ってまいりました。その目的を申し上げますと、徳島県の神山町の立て役者であります NPO グリーンバレーの理事者の大南信也さんの講演を聞くためでありました。かねてから大南さんという方に非常に興味を持っておりまして、どういう方なのかという人となりをまず感じたいというのがありまして行ってきたわけでありまして。

神山町と申しますと、IT 企業のサテライトオフィスの誘致で有名な町でございます。人口規模が 5,300 人。今日は大南さんの講演の最後ですけれども紹介していました神山進化論、この本でありますけれども、サブタイトルが人口減少を可能性に変えるまちづくりとあります。これを読みましたが、非常に内容の濃い本になっておりまして、朝日新聞の記者が書かれた本でありますけれども、非常に読みやすくまとまっております。そんな中で、今日はまちづくりについての飯綱町の考えを聞きたいと思ひまして質問を考えてきました。

まず、仮称ですがまちづくり公社についてお伺いしたいと思います。さきの全協で示されました、こちらの素案でありますけれども、この素案で示された概念図では農産、営農、観光、まちづくりと 4 つの部門を総括した公社とあります。不確定なことが多いですが、三セクの飯綱リゾート開発株式会社やふるさと振興公社での経験が生かされていますでしょうか。

スキー場も紆余曲折しながら民間会社への売却が決まりました。それなのに初めから公社とした理由、どうしてなのか理解に苦しむところがあります。利益の追求といった観念からは、株式会社の方が純粋に利潤の追求にいけると思ひます。

峯村町長におかれましては、飯綱リゾート開発株式会社もふるさと振興公社も現場の最前線

にいられたかと思います。その中でその経験を踏まえて今回のこの公社のコンセプト案についてお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。まず、ふるさと振興公社を設立いたしました、平成8年のことでした。もう22年を迎えようという歴史がございますけれど、その平成8年に設立した、時の牟礼村ふるさと振興公社は、いわゆる有限会社で設立をしてございます。公社という名前の会社でございます。何で会社にしたかと言いますと、その当時周りの自治体には、農業公社も含めて何とか公社というのが非常に多くございました。

そんなところを視察して歩いた経験上、極端に言えばですが、終業時間が5時15分という決まりの中では、お客様が5時15分に米を買いに来て、明日来てほしいという中身でございました。これではこれからの運営は難しいだろうということで、設立する仲間にはJAさんも入っていただきましたけれども、公社という名前の民間会社でございました。したがって、飯綱リゾートは元々民間会社のスタートでずっときておまして、多少持ち株の割合が行政の方が多いか、民間が多いかの時代はございましたけれども、民間会社としてスタートをしてきておりました。

今回、その経験を踏まえてというご質問でございますけれども、何か私どもの説明で少し不足していた部分が多分あったのだろうと、今、反省をしてございますけれども、全く公社、公の法人として設立をしていく考えはございません。今は有限会社で作ることはできませんので、恐らく株式会社でスタートしていくということになるかと思っております。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今国会では、水道事業を民営化ということが決まったわけですが、水道事業はインフラでありますけれども、そういう事業に対しましても国も民営化ということを進めたいようでありまして、裏を返せば国庫支出金を削減したいというのが見え隠れするところでありまして、そんな社会情勢の中、公社でやっていくということにつきま

しては私自身としては反対であります。

やはり公社という性格であるならば、民間事業者がやらない部分を公社としてやるべきであると思いますし、最初から営利を見込めるものに対して公社でやるというのはいかがかという感じしております。ですので、今回のまちづくり公社とありますけれども、これは飽くまで公社で考えていただきたいくはないというのが私自身の思いであります。

次の質問に参りますけれども、これまでの6次産業化の構想の中でも直売所の統合や道の駅にも触れてきてはいますけれども、ここへ来て閉校した2小学校を管理していく予定の仮称まちづくり会社を併合したものにするのは強引なやり方と感じます。風呂敷を広げ過ぎとも見えなくはありません。なぜにそのような考えに至ったのか。当然事業の連携はもっともと思いますが、6次産業化構想と観光、まちづくり部門は切り離した方が良いと思いますけれども、その辺について見解をお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 全体的な考え方について私から申し上げて、事務的に今たたき上げておりますから場合によれば課長からも答弁をいたしますけれども、まず確認をさせていただきたいのは、先ほど答弁をさせていただいたとおり公社にするつもりはないです。その前提の話を取り取りしても時間の無駄なので、それはまず是非ご理解をいただきたい。

その次、農業部門と学校管理の部門と観光、みんな十把一絡げみたいで少し乱暴ではないかということですが、これは順に中身を深くご理解をいただく中で、ご理解をいただけるのではないかと考えています。

例えば学校の利用を考えました。第二小学校の跡地でシールドを作りたいというところが入ってきます。また、その1階フロアには地元しかできないような材料を使ったパンみたいなのもいい。食べていただくような簡単なお店みたいなテナントショップではないですけど、チャレンジショップみたいなのが来てもらったらいい。東京へそういう人たちを誘致するような、そういう組織として動くことも大事。来てもらったらどこに泊まるか。赤東に何人かで組織し

て農家民泊みたいなことをしてもらえばいい。まちづくり会社の事業だからまちづくり会社でこれとこれはやり、ここからここは農業だから、りんごの話は振興公社。

理論的には連携、協調していけばいいと言っても、本当に一体となって動くという難しさというものを私は非常に味わってきました。そしてまた、2つの会社を作るということは2人のボスがいるわけです。その人たちの人件費と言いますか、そういうものも組織してやっていかなければならない。そうであるならば、これだけの単位の飯綱町であれば、農業の部門については同じ会社の中の農業部門として大いにやっていってもらえばいいのではないかと。観光の部門は観光協会長を呼んで話し合っ、観光協会の会員の親睦や会員のいろいろな優遇みたいなものは観光協会としてやっていてもいいけど、飯綱町全体の観光ということと農業とどうタイアップさせていくか、宿泊とどうタイアップさせていくかというのは、これは1つの所でやってもらって大いに結構だという話の中で、2つの会社を作るよりも大きな1つの組織として動いていく。そして部門、部門に責任者を置いてしっかり運営管理をしていくのが良いのではないかと。という経過の中で、そういう話が出てきております。

したがって、今後の課題として一番大事なのは、全体を考えていただくリーダーはどのような能力を持った人がいいのか。そして、各部門にもリーダーをもちろん置いていくわけですが、各リーダーとの連携、協調の体制づくりというのはどうしていけばいいのか。事務局的なものはどうしていけばいいのか。役場の関わり合いは、どの程度関わっていけばいいのか。これからじっくり1年を掛けて、来年の10月頃までにはしかるべき整った会社としてスタートしたいと考えているところです。来年度の予算からいよいよ学校等々の改築が始まっていきます。目的に合った増改築をしていくようになると思いますが、いよいよ機能を発揮して活動するのは次の年の4月以降になると思います。そんなことも含めて、来年の今頃までには会社の新しい組織もスタートさせていきたいと、そんな予定で進んでおります。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 神山町でも神山つなぐ公社というものを立ち上げております。それは、総合計画を作る時点からそういう話があったようでありまして、その中でも農業に関するフード

ハブですとか、大埜地集合住宅というのも公社で管理しているようなことがこの本にも書いてありますけれども、今の町長の答弁の中では一本化した方が合理的だというような意見がございましたけれども、担当課長はどのようにお考えになっているのかお伺いしたいと思います。企画課と産業観光課、それぞれお願いしたいと思います。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えしたいと思います。若干、経過等から少しお話をさせていただきます。まず当初、小学校跡施設の運営を中心に行うということで、まちづくり会社の設立というものを目指してきたわけですが、当初はこのまちづくり会社をスモールスタートさせまして、将来的には振興公社ですとか、6次産業化、観光事業等を包含した、一本化した会社にしていくという事業スキームということで構想はしていたもので、今回はその方針、その構想を前倒しする形になったということでご理解をいただきたいと思っております。

現在の構想に至った経緯でございますけれども、最初の質問で議員からもご指摘がありましたとおり、まちづくり会社が自ら稼ぎ出し、自立した会社になるためには小学校跡施設の運営管理を主要事業としながら、併せていわゆる地域商社、そういった機能を収益ベースに事業展開していくことが必要であると、コアメンバーの中での話になりまして、飯綱町の経済的リソースは、やはりりんごを核とする農産物であるといったことから、そこに付加価値を付けて販売し、新たな仕事ですとか雇用を生むというサイクルが不可欠でありまして、農産物の生産、それから加工、販売等を事業の核に据え、それらを通じて小学校跡施設の利活用と集客につなげていくというのが、まちづくり会社の事業の柱であるということになったものでございます。

それを考えますと、正に地域商社機能というのは、本来、振興公社ですとか、6次産業化の事業領域と切り離すことはできないことにもなりますし、連携を超えた一体的な取組によってこそ効果的な事業展開が期待できるとすれば、類似する事業を担う事業体が複数あるよりも1つの会社として事業展開をした方が有効に機能すると思えまして、このまちづくり公社という

立上げを予定しているわけですが、この機会を捉えて振興公社、それから6次産業化、更には観光部門も含めた、町のエンジンと言いますか、民間会社設立構想に至ったということで、担当課としてもそのように進めていきたいと思っているところでございます。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 産業観光課といたしましては、このまちづくり公社というものは利益を追求しながら地域貢献をする会社だと考えております。これまで、飯綱町の農業関係、観光関係、それぞれ今までも一生懸命活動していただいていたわけですが、非常に現場の活動をするのが忙しくて、将来をじっくり考える人たちがなかなかいなかったというのが1つの課題だと考えております。

今回は、このまちづくり公社の中で、シンクタンク機能として、また将来の農業振興や観光振興に向けて、じっくり将来を考えて行動をするといった考える所と行動する所が一緒になって進めていくことが非常に重要なのではないかと考えているところでございます。以上です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 先日、新しくなりましたスキー場の住民説明会があった折に、町長のコメントでまちづくり会社に少し触れられておりました。その発言の中で、ソフトバンクと申されましたけれども、今現在、ソフトバンクがどういう形で関わられているのかご説明願いたいと思います。町長お願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えさせていただきたいと思います。実際に今、関わっていただいているのはソフトバンクヒューマンキャピタルと言いまして、ソフトバンクの関連会社でございます。

この事業者につきましては、平成29年度でもまちづくり会社というお話を先ほど申し上げましたけれども、まちづくり会社の構想段階から少し関わりを持ってきていただいていた事業者

でございます、現在はこのまちづくり公社、仮称ですけれども、この設立のコンセプトをふるさと振興公社ですとか、観光協会、まちづくり部門、こういった代表者の方に集まっていたいて、打合せ、検討を持つためのそういった組織を立ち上げて現在進めております。コンセプト委員会という言い方をしておりますけれども、このコンセプト委員会の運営、あとまちづくり公社の設立、こういったところの支援をいただくということで現在関わっていただいている事業者さんでございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは改めて質問したいと思いますが、こちらの表、まちづくり公社の素案概念図、これを作成されたのはヒューマンキャピタルさんの会社の方で作成したということで解釈してよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） これにつきましては、町で作成をしております。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 町で作成したということでありまして、私自身、これを見たときにこの概念図は余りにも役所的だと率直に感じました。総務部門が傘の一番上の方にありますけれども、これ天地を逆にして、逆さにした方がすんなり飲み込めるような案にはなろうかと思うわけですが、町が関わるのであればセーフティネットである部分で関わるべきだと思っておりますし、町が事業を描いているいろいろ企画などしてやるというのはどうかと思います。

町の性格上、予算を使うことは当たり前でありますけれども、お金を回収するということについては今一つのところがあると感じておりますので、そういったことから、この概念図は少し不適當ではないかと感じたのが正直であります。

それで、今ソフトバンクの話が出ましたけれども、先ほどの企画課長の話の中で地域商社とありましたけれども、小学校の跡利用に地域商社的なものが欲しいということでもありますけれども、それも今回の神山町を引き合いに出させていただきますけれども、神山町ではワークイ

ンレジデンスと申しまして、あらかじめ業を確立された方を逆指名のような形で招いて定住していただいているような施策をとっております。例えば、パン屋さんであるですか、先ほど樋口議員さんのお話にもありましたけれども、家具屋さんであるとか、そういう方たちを逆指名して、この町にこういう人が必要だということで全国から公募を掛けているような仕組みであるようであります。

そんなことから地域商社とありますけれども、そう簡単にすぐわいてくるものでもありませんし、当然時間が掛かると思うわけです。このまちづくり会社の旧小学校の跡利用に関しては、来年、予算を挙げたとしても来年度のうちに軌道に乗るという事業ではないと思います。

赤東地区も高岡地区もそうだと思いますが、なかなか一度消えた学校の灯というのは、すぐには復活しませんし、時間が掛かることだと思っておりますけれども、そのような中であれだけの規模の施設ですから維持するのにもお金が掛かる。そうであればどうしていけばいいのかということで地域商社ということになるでしょうけれども、やはり町はそこら辺も見据えてある程度3年、5年なり、中長期になろうかと思いますが、町は何らかの形で支援していかなければいけないと思うわけです。そういった施設管理の部分の費用に対して補助はしてもいいのではないかと私は思っておりますけれども、このまちづくり会社、これが余りにも大きくなってしまうと果たしてどこに補助金、はっきり申し上げて補助金になりますけれども、支出していくのかというのが見えづらい状況になっていくかと思えます。そういった財務上のことになりますけれども、農産、営農、観光、まちづくりとありますけれども、例えば右の資金を左に移すとか、それはなかなか厳しいと思いますが、純粹に農産部門は物販ですから利益が上げられる構造かと思えますが、荒廃地問題ですとか、農業そのほかの問題については利益が見込めない分野もありますし、利益を追求する部分、そして公益にかなう部分、その切り分けはしっかりされた方がいいのではないかと考えます。それについて町長もう1度お願いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 一番悩んでいるところのご質問で、私もそこら辺が一番問題だろうと思っ

ているわけですが、議員のご意見にも少し私は相反するものがあると思います。どちらかというと、どうもこれは役場的な考えの会社の組織で、もう一つ利益を追求する会社としてはいかがかというご指摘を最初に受けました。であるならば、民間で本当に動いてもらうのが一番良いです。会社設立も資本金を集めるにはどの程度の人がこういうものがスタートするといつて出資してくれるのでしょうか。どこかのファンドがそこに投資しようということだけで考えてただけるのか。やはり、後半で議員がおっしゃった3年、4年、5年ぐらいは、町がある程度のことを軌道に乗るまでは考えてやらないと厳しいのではないかという事情を抱えているのが、このまちづくり会社のスタートの状況だと思っております。

しかも、ある意味では会社が大きくスケールメリットを得るといのは、どこかの部門の赤字をどこかの部門の黒字で補填をしていく。それで会社全体としては、いわゆる行政からずっと支援をしていってもらわなければ運営できない体質から、自分たちの費用については自分たちで稼ぎ出すというような体制へ移っていける。そういうことを将来的な目標に据えていくわけですが、ふるさと振興公社の時も営農部門の赤字というものは認めるけれども、そば屋の赤字つというものは自分たちで補填すればいいではないか。トラクターや荒廃地対策は行政として支援してもいいのではないかというようなご意見も多々ありました。しかし、1つの会社として、繰り返しになりますけれど、赤字の部門、黒字の部門をトータルとして運営し、そして全体として良い方向へ持っていくような形が将来的に望むところだと思っております。

それで、課長が地域商社と申し上げたのは、学校の利用が商社ということではなくて、商社というのは正直言って石油から米から自動車から、みんな扱うのがいわゆる商社のビジネスでございまして、りんごも扱いますけれども、東京や都心からお客さんを誘致してくるような事業も新しいまちづくり会社の大きな事業として関係人口を増やしていく。東京で一大イベントを行う。若い人たちの住宅建設についてもまちづくり会社はいろいろな意味で何か絡むことはできないか。商工会さんとの絡みもまちづくり会社で絡んでいったらどうか。そういういろいろな部門について、トータルでタッチをしていくという意味で商社という例を課長の方で出したと思っております。

軌道に乗っていくまでについては、議員おっしゃるとおり、ある程度は町としての具体的な支援、どういう支援をどういうふうに、どのぐらいまでというようなことも決めていくことも必要だろうと思っております。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 質問事項の中には直接は触れていないわけですが、関わりあることなので確認しておきたいと思いますが、ふるさと振興公社の四季彩にしましても、よこ亭にしましても、下の土地は借地であります。町長の公約で6次産業の直売所とあるわけですが、三本松辺りで考えておられるようですが、そちらの土地に関しては買上げなのか、それとも借地でいく予定なのか、その辺もここで伺っておきたいと思っております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答え申し上げます。横手の直売所一連の所も買収したのもございます。借りている所もあります。それは混在しております。ついこの間も、貸していたけれども買取りをしてほしいというような申出があつて、買取りを今、進めている所もございますけれども、当初から買う所と借りている所と、それは地主さんの要望に沿った形でやってきました。

今回の三本松で考えているのは、借地ということで、借りるということで進めておりますけれど、借地でいく方が値段は良いかもしれません。ここで購入させていただいた方がという場合もありますけれども、いずれも地主さんの要望に沿う形で話を進めてまいります。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは次の質問に参ります。このまちづくり会社でありますけれども、発足をいつ頃に設定しているのでしょうか。また、新組織の立ち上げには何名ほどの雇用を見込んでいるのか。マネージメントは誰が担うのか。町長、副町長には本来の仕事に専念してほしいと思っておりますが、今現在どのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えします。新会社の発足でございますけれども、これにつきましては約1年後でございます。来年の10月を予定しているところでございます。

また、新たな雇用についてということでございますけれども、何名という具体的な数字を現在示せる段階ではないと思っておりますけれども、事業計画をただいま精査している段階ですので、事業計画がある程度固まってくれば必要な人材ですとか、従業員数等も見えてくるかと思っております。

ただ、フレームは大きくなったわけでございますけれども、基本的には既存の事業体とまちづくり部門、最初に予定をしておりました学校の跡施設の運営を行うことを中心に考えていたまちづくり部門が一緒になるということで、まちづくり部門についても数名ということでございましたので、会社自体は当初からスモールスタートを考えておりましたので、当面はまちづくり部門で何人の人材が必要になるか、新たな雇用というのは数名になるのかと思っております。

また、マネジメントについてでございますけれども、現時点で誰が担うかはもちろん決定をしておりませんので、今後検討していくことになると思っておりますけれども、早めに方向性を示せるようにしてまいりたいと思っておりますのでございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 町長、副町長の人事案については、まだ答弁いただいております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ふるさと振興公社は、今、副町長に会長という立場で参画をしていただいておりますけれども、私、正直言って、今の首長というのはそのぐらいの会社の経営が大体分かるぐらいの能力を持った人がふさわしいぐらいの時代にはなっていると思います。

ただ、今回の会社を作っていくには、議員、会社というのはただ明日からスタートするわけにいかない。資本金をどうやって集めるかから始まって、1年間のランニングコストが一体幾ら必要なのか。当初3,000万必要であれば、銀行から借りてくるのか、どうしてくるのか。リ

スクを背負って僕が保証人になりますという首長が出てくればいいですけども、なかなかそれは厳しい。いろいろな問題の中から当面の社長というのを決めていくわけですけど、本当でしたら、800万や1,000万を支給できて、びしびしとやっていただくようなリーダーが来ていただければ一番いいだろうと思いますけれど、その分、町が当面費用を見ていくくらいのつもりだから、町長、そういうのを見つけて来いと言えば、それは一番やりやすいというか、面白いと思いますけれども、多分、行政の首長が今回のまちづくり会社についてのトップに立つようなことは恐らくないだろうと現時点では想像しています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 先ほどの企画課長の答弁では、まだ具体的に何名と決まっていないというお答えでありました。それで提案ですが、これも昨日でしたかニュースの報道で、総務省が管轄している地域おこし協力隊、今、国の予算でやっておりますけれども、今度は一般人にもそういう補助金を出すというようなことが決まったようでありまして、こういった新会社立ち上げにはやはりその道に精通した、ある程度プロフェッショナルな人材が必要かと思います。そういったコーディネーターを全国公募したらどうかと思いますが、そういったお考えがありますでしょうか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えしたいと思います。既に議員がご指摘の地域おこし協力隊員の関係につきましては募集を掛けておりまして、まだまちづくり公社の立ち上げには至っていないわけですけども、既に立ち上げの前からいろいろとやっていただくべきことというのは多いものですから、地域おこし協力隊の方を既に募集をさせていただいております。

既に応募もいただいている方もいらっしゃるしまして、そういった方にいろいろとプロデュースしていただいたり、先ほど地域商社という言い方をしましたけれども、いろいろ飯綱町をこれから広めていっていただく活動をしていただいたりするような方を、既に探して、来ていただけるような調整を図っているところでございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 私が申し上げたのは、地域おこし協力隊をもっと募集するように言ったのではなくて、もっと精通した、それこそ業界でも通用する人材を連れてきたらどうですかというところで提案したわけですが、そういうお考えがありますかということですが。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 大変、答弁が不足しておりまして申し訳ございませんでした。地域おこし協力隊というのは財源的にも少し有利な点がございますので、地域おこし協力隊として、そういった人材を募集しておりまして、そういった方が応募していただいて、少しめども立ってきているということでご理解をいただければと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 捕捉させていただきますけれども、トップで来ていただけるというような人はまだ決まっていませんけれど、先ほど最低でも500万、600万円ぐらいな年俸は欲しいという、これを丸ごと出すのは少しきつから地域おこし協力隊の顔も持ってきていただければ、国から100、250万くらい出てくるから残りを自前で用意して、トータルという意味で課長が申し上げたわけでごさいます、ご理解いただきたいと思います。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今日、懸念していることにつきましては質問の中でお伺いしましたけれども、今後、このまちづくり会社について住民説明会をしていくご予定はありますでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） もちろんスタートをして、こんなことを町が始めていくということは、当然、赤東地域とか西地域とか、そういう地域の皆さんにも一層詳しくお話をしていかなければならない点もございますけれども、振興公社の体制や直売所も今度は全部どこの直売所に持つ

ていってもいいようになったとか、いろいろな意味で変わってくる点がございますので、当然のこととしてお話をしていかなければならないだろうと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） この事業につきましては、商工会もそうですし、観光協会もそうだと思いますが、当然、会議は開かれたものにしてほしいと思いますけれども、なるべくそういった一般住民も参加できるような会議設定にさせていただけたらと思いますが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） もちろん、会員の皆さんが限定というようなことではないので、今回の会社の運営的なことについては、極端に言うと全部の町民の皆さんに何らかの関係が出てくるようなことにもなると思いますもので、お知らせというのほどこかへ集まって会議を何回か開けば済むということよりも、今、地域に地方の創生、地域への創生事業をどのようにやるなど、地域懇談会に小まめに出て歩いてやってきているような事業もございますし、私も各組に、各区に出掛けていろいろな話をさせていただく機会も、毎年幾つも予定されているものもございますし、いろいろな機会を通じて、こういうことを町として始めていきたいと、そんなふうに説明をしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは次の事項の質問に移ります。北部高校との連携についてお伺いします。

町の将来も左右する北部高校でありますけれども、地域高校として残っていくのに全国から生徒募集をするぐらいのことも考えた方がいいのではないかと考えます。県教委の所管ということでもありますけれども、町としても努力目標をきっちりと定めて、これから進んでいった方がいいのではないかと思います。

町は、これまでも北部高校を愛する会に支援してはおりますけれども、そういったことでは

なく、昨日、町長の答弁にもありましたけれども、信濃町と連携することも踏まえてという発言もありました。

私としましては、信濃町と飯綱町で学校運営協議会を立ち上げて県に訴えていくような体制を作ると言いましょうか、協議会としてスタートさせるということを具体的に申し上げたいわけですが、いかがお考えでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答えします。石川議員から、例えば信濃町と飯綱町を挙げて北部高校の存続に向けて県に訴えていったらというお話でしたが、既に高校再編についてはそれぞれの地区で会議が行われていて、北信地区でも2回ほど会議がありました。

もちろん、そこには私も含めて北部高校の関係者、PTA、中学校長が出掛けるわけですが、そこで北信地区の高校についていろいろな意見が出されます。2回ともそうですけれど、その中で一番発言が多いのは北部高校関係者です。もちろん、ほかの高校、特に地域校といわれる高校のPTAや学校関係者からも自校がどれだけ頑張っているか、それからこのような活動している、だから大事だという意見が出されますけれども、2回とも北部高校に関する発言が一番多かったです。特に保護者から、「うちの子供が北部高校に行って本当に良かった」という声が積極的に出て大変うれしかったという思いもあります。そういうことは積極的に続けております。

今、議員から全国から生徒募集するぐらいのことを考えた方が良いのではないかというお話でしたけれども、地域では少子化で人口が減っていてなかなか募集が少ないため、全国から集めたらいいかというところ簡単にはいきません。なぜなら、日本中の人口が減っていて、どの県でも、長野県のどこの地域でも、やはり生徒の確保というのが大きな問題になっているからです。

そういう意味では、単純に地元で足りないから全国募集を掛けるというふうにはいかないですけれども、いろいろ頑張ってやれることはこれからもやっていこうと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 時間の都合もあるので次の質問に含めさせていただきますが、今風の言葉で捉えるならば、環境創造学科といったクリエイション、更には農業の町とうたうのであれば農業科を復活させて、新規就農者の養成所となるような学校づくりをしてほしいと思います。寮が必要となれば、町で建設するぐらいの覚悟で臨んでほしいと思いますが、それについてはどのようにお考えでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） 新しい科の創設、または農業科を復活させるというご意見ですけれども、今、長野県では、かつて各地域にあった農業科がどんどん減っています。そういう中で、農業の町だから農業科を復活すれば人が集まるのではないかというのは、先ほどの全国区から集めるというものと同じで、そう簡単にいくものではないと思っています。

ただ、今、北部高校の売りというのはコース別学習です。北部高校の前期試験の志望動機として一番多いのが、コース別学習に魅力を感じて、そこで自分が体験をしてみたい、専門的な知識を身に付けたいということです。ですから、これは今後とも大事にしていきたいと北部高校でも考えておられます。

もう1つの売りとして、やはり農業体験が北部高校の売りになっています。これは地域と北部高校が連携してやっているものです。飯綱町、信濃町の北部高校を愛する会もそうですけれども、コンセプトとしては地域で高校を育てていきたいということが根底にあります。もう20年来、北部高校の地域講師としてご協力いただいている宮本久子さんが、北部高校の生徒を称して、「飯綱町の若い衆だと思って大事に育てている」、そのように言ってくださいました。それが北部高校の先生方や生徒にも浸透していると思います。

今、北部高校の生徒は農業体験としてりんごを育てているわけですが、そのりんごを販売したり、それから自分たちがドレッシングを作って販売したりしています。町のイベントでも出店を出して、いろいろ協力してくれています。

例えば将来、体験学習としてやっていったことを単位として認定するとか、または北部高校で勉強したことが就業につながるような、高校と町の連携をしていきたい。また、そういう中で先ほど議員がおっしゃったように、「どうだ、将来農業やってみたい子がいたら、飯綱町で高校の授業料もそれから仕事も支援するよ」、そういう形で全国から生徒を募集する。そんなこともできたらいいと思います。具体的にまだ一歩踏み出せるというところまでいっていないですけども、そんな夢も語り合いながら北部高校を地域で育てたいと考えております。

話は違うわけですがけれども、前年度、北部高校の生徒さんで家庭の事情で独りになってしまった。ご病気とかいろいろな関係で要するに保護者がいなくなってしまった。長野市の生徒さんだったわけですがけれども、何とか下宿がないかということで前副町長さんも一生懸命に奔走してくださって、駅前の丸為旅館さんが受け入れてくださいました。そのときに丸為旅館さんが、もしこういう形で下宿が必要だったら、これからも受け入れてもいいとおっしゃってくださいました。

そのときには、もちろん子供たちのたまり場にならないようにいろいろな約束など、そういったことは決めてやるわけですがけれども、そういうお話があったときに、「それもこれからの北部高校の1つの経営の形にできますね」ということを校長先生などとお話したこともありました。そのようなことがヒントになればということは考えております。以上です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今回、神山町を引き合いに出しておりますけれども、神山町よりも有名な海士町がございますけれども、海士町の島前高校では、平成20年89人だったのが、今現在180人を超えるほどの規模になっているということでもあります。

そちらには岩本君という若い彼が教育コーディネーターとして入って、V字回復させたということでもありますけれども、島前高校魅力化プロジェクトというのを立ち上げて取り組んだようでもあります。

県内においても、白馬高校は国際観光科ということで、白馬村と小谷村で協議会を立ち上げてまして、今、国際観光科があるわけですがけれども、つい最近のテレビを見ていまして高校生

ホテルとかで取り上げられて、けっこう話題になっているような状況でございます。

先ほどの質問にまだ返答いただけていないことで確認したいと思いますが、信濃町との連携した学校運営協議会というのは現在あるのでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答えいたします。今、その話は実際に話し合っている最中でありまして、北部高校と信濃町、それから北部高校と飯綱町が協定を結んでやっ払いこうという話は実際に今進んでおります。ただ、協定が済んだかということになりますと、今、調整をしてこれから具体的な取決めをしていくという段階です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 先ほどのスキー場の新会社であるファースト・パシフィック・キャピタルの社長さんではないですが、あのときにリベラルアーツということもおっしゃっておりました。自由学芸ということでしょうけれども、北部高校にある情報とスポーツとアートコースですか、県教委の所管では、中山間地の存立校という位置づけではあるようですが、そういったことであれば、それこそリベラルアーツといったものに特化して生徒募集するですとか、この前の質問にもなりますけれども、まちづくり会社といったものも高校卒業後の進路を考える先にもなるかと思えますし、もう少し複合的に考えていけないものかとも思っております。その点について最後なるかと思えますが、町長の意見をお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 正しく、それも1つのご提案だと思います。以前、ゴルフで、スキーでというようなご提案もいただきました。

私、120人の定員で最近では中途でお辞めになる子供さんも大分少なくなってきた、卒業式、入学式も非常にびしっとして、立派な高校になってきたと思っております。そういう専門的なものもいいですが、非常にきつい発言で恐縮ですが、校長さんには、「先生、やはりここは

学業で頭の良い子どもどんどん育ててよ。ここから六大学に何人も行っているし、出てきて高校の先生になっている。」というようなことも是非お願いをしたい。

とにかく、いろいろな意味で特色を持たせた素晴らしい高校になるよう、私ども町も一体になって進めていきたいと思います。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 先月でしたか、先々月でしたか、企画課主催のフューチャースクールという起業塾みたいなものがあったわけですが、そこに北部高校生で小布施町在住の彼が小布施から自転車で来たという子がいました。そういった元気な、前向きな生徒さんも実際におりますし、町としても北部高校の支援を今以上にしてほしいなと思いますけれども、願いを変えて私の質問を終わりたいと思います。

○議長（清水満） 石川議員、ご苦労様でした。

ここで暫時休憩に入りたいと思います。再開は11時10分をお願いします。